

<b>クラス番号</b>	632	<b>担当教員名</b>	高山京子
<b>テーマ</b>	「生きづらさ」への理解 ～あらゆる生き方への、肯定的眼差しを通して～		
<b>著書・論文 研究課題等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活アセスメント研究会『福祉・介護に求められる生活アセスメント』中央法規出版(共著)2007.11</li> <li>・日本福祉大学社会福祉学部日本福祉大学社会福祉開発研究所『日本福祉大学社会福祉論集』第125号「若手の相談支援専門員が必要としている研修の内容に関する基礎的研究(その2)～2年目のインタビュー調査の結果から～」木全和巳・高橋義久・高山京子共同研究 2011.9</li> <li>・厚生労働科学研究費補助金(障害保健福祉総合研究事業)『障害者の相談支援にかかる人材養成に関する研究』分担研究「障害者ケアマネジメント従事者人材養成システムに関する研究(分担研究者:木全和巳)」共同研究(2009.4～2011.3)</li> <li>・社会福祉法人あゆみの会知多農園施設整備事業(農林水産省 『農』のある暮らしづくり交付金事業活用ハード整備)2014年度事業 など</li> </ul> <p>【研究課題】相談支援、相談支援に活用できる“当事者研究”、誰もが安心して暮らせる地域作りのための仕組み、組織作り(人材育成、離職防止)</p>		

## ゼミナール概要

キーワード： ソーシャルワーク 精神保健福祉 障害者福祉 当事者研究 当事者理解

### 【目的】

学部の精神保健福祉関連の講義で必ず聞いたことがある、障がいのある人が抱える「生きづらさ」。今や障がいのある人だけでなく、生活困窮、不登校、引きこもり、あらゆる世代の、まさに共通する課題として認識されつつあります。この「生きづらさ」とは何なのでしょう。そんな平易な疑問の視点に降り立って、あらゆる角度から「生きづらさ」について体感的に学ぶことを目指します。時としてじぶんの中に(も)ある「生きづらさ」とシンクロしつつ、じぶんの「当事者性」に気づき、より当事者の側に軸足を置いた生活支援ができるソーシャルワーカーとなれるセンスを磨くことを重視します。

### 【方法】

人間福祉専修2年目のゼミ展開です。ゼミの進め方はできるだけ皆さんと協議して決めていきます。

可能な限り現場に出向いたり、当事者に出会って話を聞いたり、とフィールドワークを重視した学びに注力していきます。目指せ、フィールドワーカー！

### 【授業計画】

前期は、次の取り組みを考えています。

- ① 文献研究や映像学習を中心に、当事者理解のあれこれを探っていきます。担当教員が実践でも大事にしている「当事者研究」について、その出自や内容を知ることから始めます。文献やDVDの観賞を通して、また、この知多圏域で当事者研究に取り組む当事者にも登壇頂き、「生」の当事者研究のリアリティの体感を目指します。
- ② いよいよ「生きづらさ」について熟考していきます。じぶんの中にもある(はず)の「生きづらさ」に“ほんのり～”向き合いつつ、眺めつつ、生きづらさがどこから来るのか、を一緒に考えてみたいと思います。後期は社会福祉士実習期間にも重なるので、ゆるゆると卒業論文の執筆準備を行います。卒業論文の書き方を探索することからはじめ、じぶんの問題関心を先鋭化していきます。そして先行研究に触れながら、卒論のテーマの絞り込みを行っていきます。

また、ゼミの春合宿を行います。わたしの自慢「人の繋がりだけで生きている(笑)」のネットワークを活用して、全国にある先進的な取り組みの地へ飛んで行きましょう！(そのためにお金も貯めよう！！)

## 担当教員からのメッセージ



私は精神科病院(精神科と内科、特に結核の入院施設のある病院)のソーシャルワーカーとして社会福祉実践を開始、その後嗜癲問題専門クリニックのソーシャルワーカー、社会復帰施設の精神保健福祉士を経て、今は地域での主に精神障がい者支援に取り組む、約30年の“現場人間”です。学術的な学習指導は苦手ですが、現場リアリティ、特に当事者の側に立った支援の学習指導にはこだわりたい。このゼミでは決して狭い意味での専門援助に閉じない支援が目指せる人“財”を養成したいと思っています。「事に対しては批判的に関わり、人に対しては常に肯定的に関わる」ことを目指します。エントリーシートには、このゼミで何を学び、何をを目指したいか、について是非記入ください。